

# 伝える

Traditions

この町にも昔ながらの風習や言い伝えというものがたくさんあります。  
それらは、時代とともに変化し消え去るものもありますが、  
ここにその一部を紹介し、先人たちがいまに伝える「生きざま」を垣間見たいと思います。

## 門松と慣習

大字今伝統の門松と若衆制度

### [門松]

古くより新年を迎える飾りとして、年末になると門松やしめなわを家の門口などに飾る風習があります。

宮世話と呼ばれる若者たちが本殿前ほか数か所に鳥居のような形をした大きな門松を立てる慣習が昔から伝えられています。

しかし、この門松がどうしてこのような形をしているのか詳しくはわかりません。

### [初詣]

平成9年(1997)の元旦も、この門松で新年を迎え神社に参拝し初詣をすませた村の人たちは、社務所前で宮世話さんと年賀の挨拶を行うことが慣習となっています。

以前は社務所前にもこのような門松が立てられていたのですが、現在はここには立てられなくなりました。

### [元服式と若衆]

毎年1月14日(現在は15日)になると、社務所で元服式という行事が行われます。子どもたちは元服を迎えるまで半役として1年間神社で下積みを終えないと元服させてもらえず、元服して1年後によく若衆入りを許されるのです。

昔は、大変厳しく親に文句を言っても、この神社で文句を言う人は誰もいなかったようです。

平成9年の元服式には、該当する子どもがいませんでした。

### [左義長]

社務所で若衆の行事が一通り終わると、今度は鳥居の前で左義長と呼ばれるこの日最後の行事が行われます。これは、正月用のお飾りや古いお札を、門松で作った櫓で燃やす行事です。本殿のご神灯で授かった種火で点火すると、燃え盛る櫓はその年の「鬼門」の方向へと崩れ落ちます。燃えさしの袴と呼ばれる青竹で作られた部分は、鳥居の袂に集め置きます。翌朝、氏子たちがそれらを持ち帰り、小豆粥を炊く火の中へ入れて燃やすのです。



今天満神社の門松



初詣



元服を終え若衆入りする子どもたち



左義長

## 年占い

しらとり あずき  
白鳥神社(種)の小豆占い

この神事は年の初めに五穀豊穰ごこくほうじょうを祈願するとともに、しのべ竹の筒の中に入った小豆粥あずきがゆの状態によってその年の作物さくがらの作柄を占うという行事です。

村民より選ばれた宮世話と呼ばれる人たちが、1月15

日朝7時、宮司くわじを先頭に本殿ほんくわいで奉告祭を行い、祭事が終わると、拝殿前で粥かゆを炊き、その中に両端を斜めに切ったしのべ竹7本を入れ炊きあげます。

炊きあがった小豆粥は、かまのまま社務所に運ばれ、7本の竹筒を取り出し、中が見えるようにその筒を剥ぎ、評定衆ひょうじょうしゅうに判定を求めます。

判定が決まると御管おくだの表に、上・中・下の印を押し、社務所に1年間掲げられます。



小豆占い

だいにち との  
大日堂 大念仏

神郷とのの斗では、この村の子どもたち(小学6年生まで)を大日堂に集めて、毎年2月と10月に大念仏という行事を行っています。お参りの後、世話方さんの宿と呼ばれる家でお膳ぜんを並べて食事をします。主役である子どもたちは膳ぜんを持ち寄り、塗りのお椀わんで、おひら・いも・こぶ・

ふきなどの煮物を食べます。最近は揚げものやバナナなどとメニューも変わり、器うつわもプラスチック製となりました。宗教的な意味あいはあまり感じられません。年齢をこえた子どもたちのコミュニケーションの場となっています。



宿(世話方の家)で食事をする子どもたち



## 魔除け

かんじょうつり  
勸縄吊

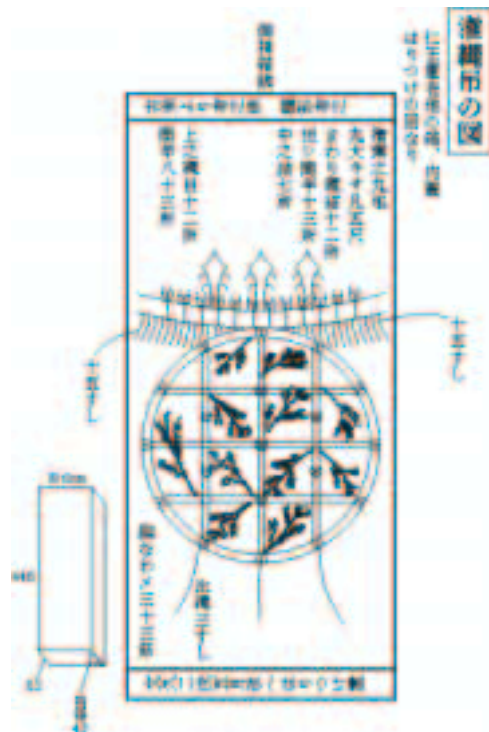
「勸請縄吊」「勸請吊」「神縄吊」などとも言い、町内では、長勝寺・伊庭仁王堂・伊庭高木観音・能登川毘沙門堂の4カ所で行われています。

勸縄は、村の入り口・村境・境内入り口などに道を横切って吊され、そのことにより悪霊・厄神の侵入を防ぎ、さらに秋に豊作を祈る意味あいが込められています。

勸縄はそれぞれの座や講に属する講中の人々で作られます。

仁王堂在地で作られる勸縄について概要を述べてみますと、以下の通りです。

1月8日の朝から(いまはその前後の日曜が多い)餅藁(餅米のわら)を10~12束ぐらいを持ち寄り、横渡しの大縄・小縄や竹の輪などを昼頃までかかって作ります。その後、それを図のように組み立てて、道を横切って高く吊します。



仁王堂の勸縄吊



高木観音の勸縄吊



長勝寺の勸縄吊